

SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	松岡 宏樹	学校名	
実施学年	1年生	教科	総合的な学習の時間
単元名	職場体験学習に向けた事前学習		

《学びを深めたいポイント》

学校行事に取り組むことは、個から集団へ成長するとても意味のある時間となります。今回の実践である「ダイヤモンドランキング」は職場体験学習の事前学習として取り組みましたが、テーマなどを変えるだけでいろいろな場面で応用可能な実践です。

今回の実践は集団での話し合いを通して、人によって価値観がちがうことに気づき、お互いの考え方をリスペクトすることに重点を置きます。自分の考えを押し通すのではなく、また多数決で単純に決めるのでもありません。他者の意見を聞いて、グループとしての答えを出していくためにどうしたらいいかを考える時間が大切です。

そのために、まずは自分自身の考えをはっきり持つためのシートを用意し、その後グループでの学習につなげます。グループ学習を行う前には、グループで話し合うルールの確認をします。

- ①他人の意見を否定しないこと。
- ②多数決で答えを出さないこと。
- ③少数意見を大切に、その思いを聞いて理解しようとする。
- ④自分の意見を変えてもいいこと。

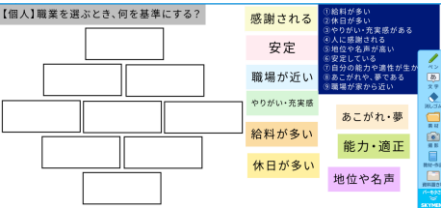
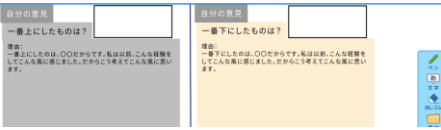
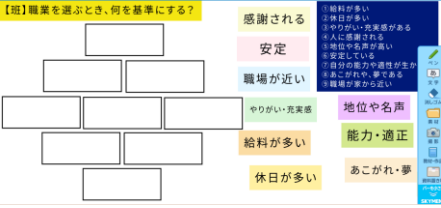
このあたりのことを意識させながらグループでの話し合いをさせます。ただし、一つの意見にまとめることが目的ではありません。話し合いがまとまらなければ、どういうポイントでまとまらなかったのかを共有することで、学びにつなげます。


《SKYMENU 活用のポイント》

- 発表ノートを、「個人シート」と「グループシート」に分けて配布します。
- ・個人の意見をキチンともたせるために、個人シートの作業時は自分自身と向き合うような時間にして下さい。
- ・グループでの話し合いは、画面ではなく顔を見ながら話をさせたかったので、グループの代表(班長等)だけにシートを配布し、班長のタブレットをみんなが触りながらやり取りするようにしました。
- 共有するときに、グループで作業した発表ノートだけ提出箱に入れることで、提出された結果を見ながら話し合いの内容を聞けるようにしました。

《実践内容》

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が働くときに、何を大切にしたいか考える。 ・本日の課題「ダイヤモンドランキング」に取り組みながら、「はたら 		<ul style="list-style-type: none"> ・数名の生徒に聞くだけに、ここに時間をかけない。

	<p>く」ということについて考えることを知る。</p>		
<p>展開</p>	<p>・配布された発表ノートを見て、9個のテーマのうち、自分の中で最も大切にしたいこととそうではないことを考え、ダイヤモンドの中に付箋を入れていく。</p> <p>・一番上（一番大切）に選んだものがなにかとその理由、また一番下（自分にとっては重要ではない）に選んだものが何かとその理由について、2枚目のシートに入力する。</p> <p>・3～4人のグループで自分の決めた順番を紹介しあい、グループとしての順番を決めるために話し合う。</p> <p>・グループ学習の前に、話し合いのルールを確認する。</p> <p>①他人の意見を否定しないこと。</p> <p>②多数決で答えを出さないこと。</p> <p>③少数意見を大切にしてい、その思いを聞いて理解しようとする。</p> <p>④自分の意見を変えてもいいこと。</p> <p>・時間があれば、班のシートの2枚目にも入力する。</p> <p>・班長は班用の発表ノートを提出する。</p>	<p>・事前に用意した個人用の発表ノートを全員に配布して、個人の意見をまとめさせる。</p>  <p>・2枚目のシートの上部（一番大切にする）と考えた理由と、一番重要としない理由）だけ、自分の考えを入力させる。</p>  <p>・班の代表にだけ、「学習者を選んで配布」機能で班用の発表ノートを配布する。</p>  <p>・班長はタブレット端末を班の中心に置き、班員が見えるようにする。</p> <p>・提出箱を「学習者同士で閲覧」できるようにして、班で話し合った内容を発表させる。その際、意見が合わなかったときにどうしたか、どんな話の流れで今回の結果になったのかを話させる。</p>	<p>・静かな環境で、落ち着いて自分と向き合う時間が取れるようにする。</p> <p>・操作方法や支援の必要な場合は個別対応する。</p> <p>・2枚目のシートは後で行うグループ学習のメモとなる。時間的に入力できなくても、話ができればよい。</p> <p>・班用の課題が配信された班長は、自分のタブレットをグループの真ん中に置き、それぞれの考えを聞きながらグループで話し合った意見をもとに付箋を動かしていく。</p> <p>・あえて個人の端末に送信したものを扱うのではなく、班長のタブレット端末をグループ全員で見ながら話し合いを行う。</p> <p>・個人のタブレットで提出された発表ノートを見ながら班長の発表を聞く。</p>

ま と め	<p>・個人の発表ノートの2ページ目下「今回の実習で、友達の新たに発見した一面や、今までに考えたことのないような意見があれば、それらについて感じたことをまとめましょう」に入力して提出する。</p>	<p>・個人の発表ノートを完成させ、提出する。</p> <p><small>今回の実習で、友達の新たに発見した一面や、今までに考えたことのないような意見があれば、それらについて感じたことをまとめましょう</small></p> 	<p>・時間があれば個人の発表を行ってもいいが、提出箱を見ることで交流もできる。</p> <p>・いろいろな価値観をもっている人が集まって、一つの職場で働いていることに気づかせ、職場体験の取り組みにつなげる。</p>
-------------	--	--	--

《実践を振り返って》

今まではこの教材を、プリントを使って授業したり、GoogleJamboard を使って授業したりしてきました。今回は発表ノートを使うことで、それぞれの有効な部分を取り上げた形としました。プリントに記入させると、それぞれの班で記入したプリントを黒板に貼ることになりますが、他の班からはほとんど見えません。Jamboard（現在は使用不可）を使うと、生徒一人ひとりが画面を見ながら作業することになります。私としては顔を合わせながら話し合い活動をさせたかったので、今回の方法を取りました。デジタルのいいところを利用しつつ、アナログ的な使い方を合わせることで、話し合い活動に時間をかけることができたといえます。

すべての活動をデジタルにする必要はなく、必要な場面で効果的に活用できると良いかと思います。授業者によって教材等（アプリ含む）の使い方は異なるでしょうが、デジタルを使うことで子どもたちが話し合ったり相談し合ったりする時間を増やすことができれば、充実した1時間になるのだと感じました。